

第2章 個別調査の概要__支川連続性調査__(1)カワネズミ

1 調査内容

(1) 調査の目的

ダム湛水区間に流入する支川に生息すると想定されるカワネズミを指標種として、流水化後の本川を介しての支川間移動(連続性)が認められるかを調査する。

なお平成22年度は各支川におけるカワネズミの生息状況の把握を行う。

(2) 調査日

平成22年10月23日～24日(カワネズミの活動期間(4月～10月))

(3) 調査地点

荒瀬ダムの湛水影響範囲(貯水池内及びダム上流端)にある支川のうち、11支川13ルートで実施した。

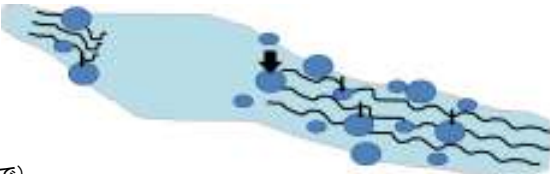
- ①百済来川2ルート、②板持川1ルート、③山口川1ルート、④鶴喰川1ルート、⑤鎌瀬川1ルート、⑥明神谷1ルート、⑦行徳川1ルート、⑧小川谷1ルート、⑨市ノ俣川2ルート、⑩枳之俣川1ルート、⑪楮木川1ルート

(4) 調査方法

カワネズミの糞が残されていると思われる溪流を現地踏査し、カワネズミの糞を目視確認した。

【カワネズミの糞がよく見つかる場所】

- ・勾配が少し緩くて川幅が広がった所
- ・淵尻○～平瀬○～早瀬○～淵頭○
- ・水に囲まれた石
- ・石の大きさは、長径30-100cm
- ・水面からの高さ15-30cm(50cm位まで)



【カワネズミの糞の特徴】

- ・太さ5mm、長さ25mm位が典型
- ・独特の臭い
- ・ため糞をすることがある
- ・中身として水生昆虫が多い(特にカゲロウ類)
- ・カワガラスの新しいものは白い尿酸がある
- ・植物の種子が混じることはない



【カワネズミの糞であるという判断】

- ・水に囲まれた石に、上記の大きさの糞が複数かたまってある
- ・単独でも、新しく、独特の臭いがあり、かつ形がしっかりしていて尿酸がない

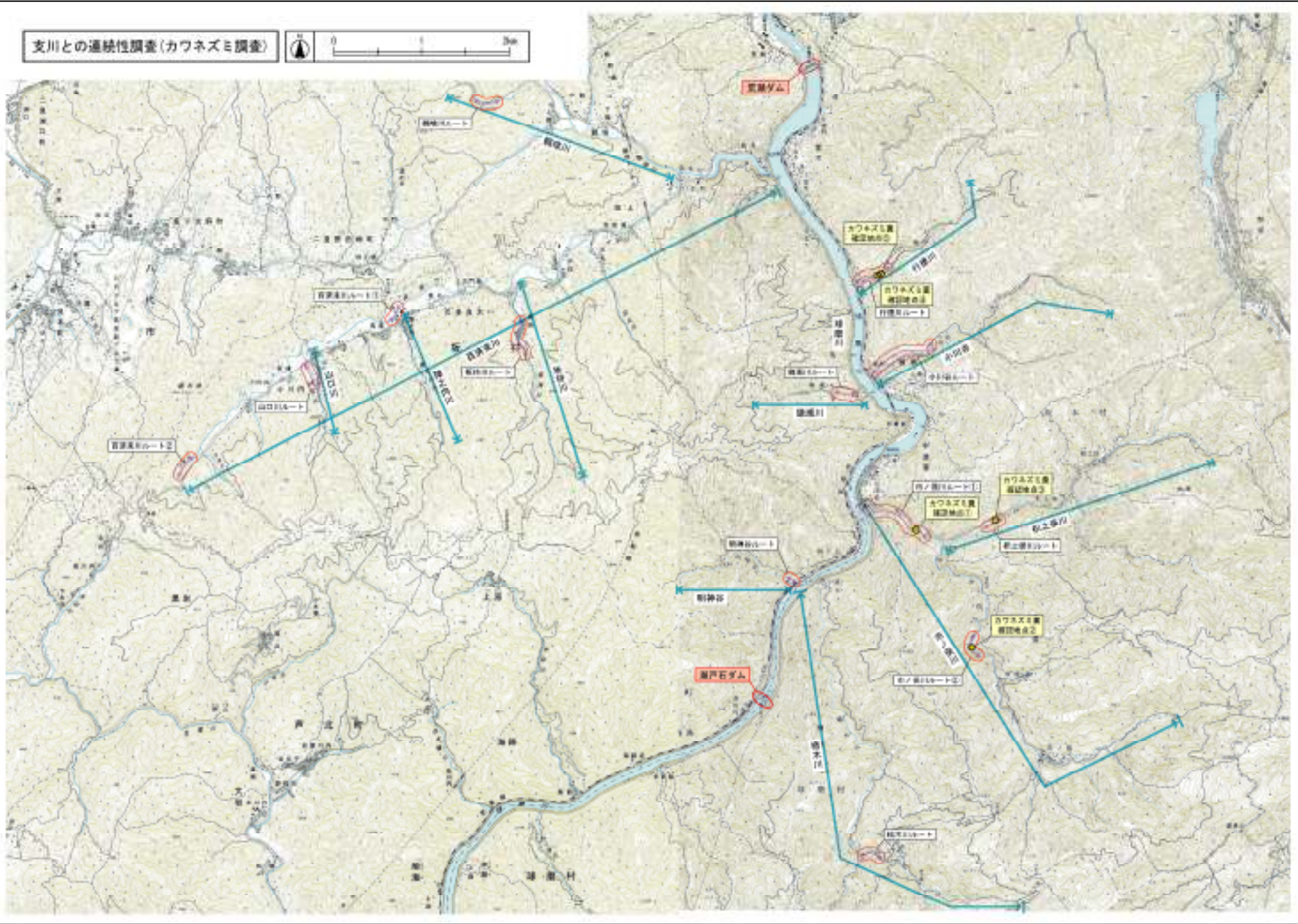
2 調査結果

- (1) 3支川5箇所でカワネズミの糞を確認した。
- (2) 内訳は、行徳川2箇所、市ノ俣川2箇所、枳之俣川1箇所であった(下図の黄色着色箇所)。
- (3) カワネズミの確認箇所の特徴を以下に記す。
 - ・右岸支川でのみ確認された。
 - ・河川形態がAa型で、人頭大の石が多く存在する場所で確認された。

カワネズミの糞の確認地の状況(枳之俣川)



カワネズミの糞の現地確認状況



※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。

第2章 個別調査の概要__支川連続性調査__(2) ヤマメ

1 調査内容

(1) 調査の目的

ダム湛水区間に流入する支川に生息すると想定されるヤマメを指標種として、流水化後の本川を介しての支川間移動(連続性)が認められるかを調査する。

なお、平成22年度は各支川におけるヤマメの生息状況の把握を行う。

(2) 調査日

平成22年11月10日(ヤマメの稚魚・未成魚・成魚が下流部の淵に留まっているため確認し易いと思われる秋季に実施)

(3) 調査地点

荒瀬ダムの湛水影響範囲(貯水池内及びダム上流端)にある支川のうち、8支川27地点(注:漁協ヒアでヤマメの放流が確認されている市ノ俣川と鎌瀬川を除いた)で実施した。

- ①百済木川3地点、②板持川6地点、③陣之内川4地点、
- ④山口川3地点、⑤明神谷2地点、⑥行徳川3地点、
- ⑦小川谷2地点、⑧楮木川4地点

(4) 調査方法

ヤマメが滞留して確認しやすいと思われるS型の淵(注:床固やAa型河川の自然石の直下流に形成される水たまり)において、潜水によりヤマメを目視確認した。

潜水調査の調査風景



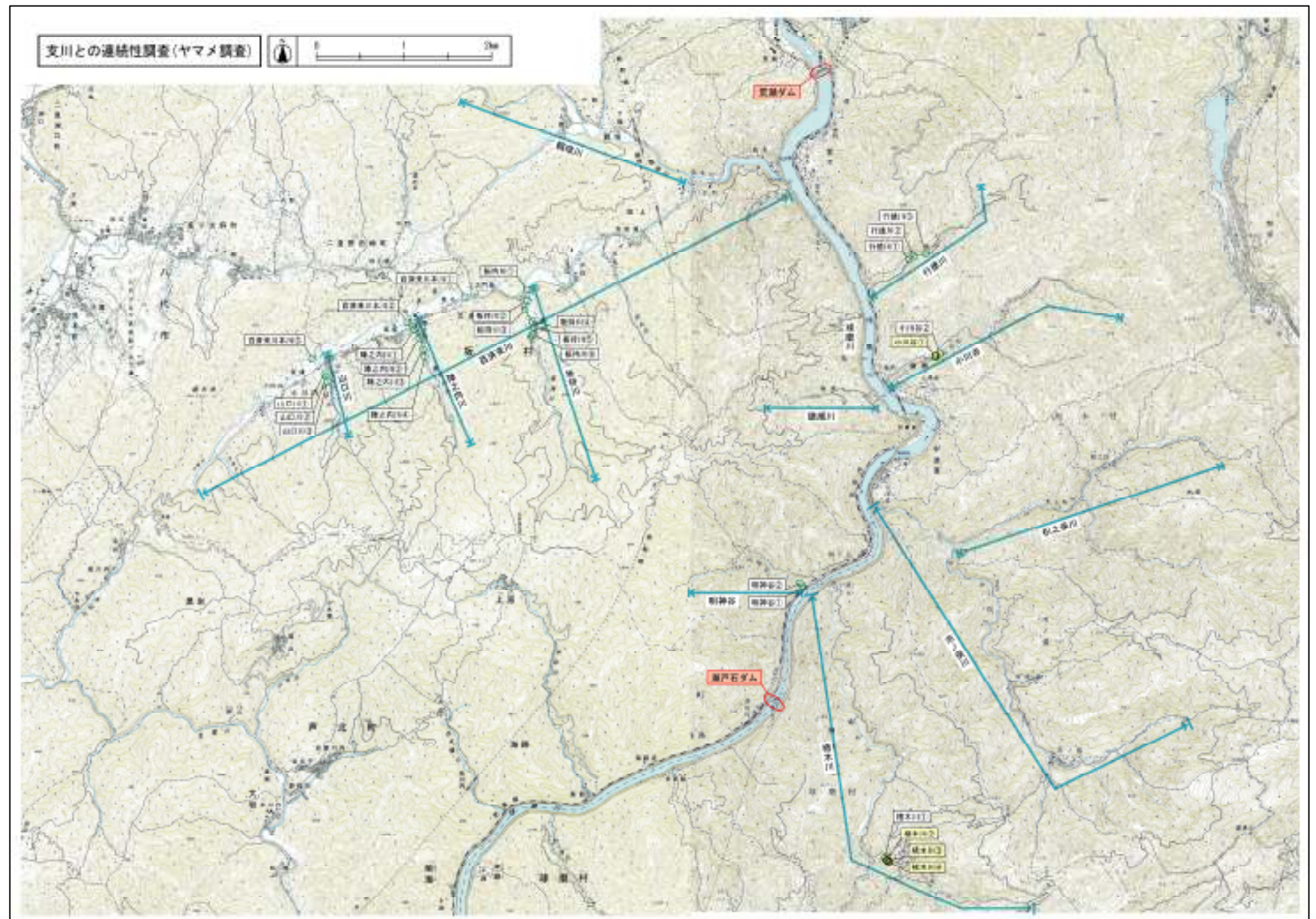
2 調査結果

- (1) 楮木川及び小川谷の2つの支川において、16個体のヤマメを確認した。(下図の黄色着色箇所)。
- (2) 内訳は、楮木川②で2個体、楮木川③で10個体、楮木川④で3個体、小川谷で1個体であった。

ヤマメの確認地の状況(楮木川)



ヤマメの現地確認状況



※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。